

180名参加 浜益地区海浜美化清掃活動 4月28日 わずか1時間半で、3トンのゴミを回収



地元住民との協働体制で

ゴールデンウィークに入る最初の4月28日、石狩市浜益区の海岸でNPO法人北海道海浜美化を進める会及び石狩市と石狩観光協会の共催による「2007浜益地区海浜美化清掃活動」を行った。

石狩市が全面的にバックアップし、地元住民との協働体制をとることで清掃場所の川下公園海岸は約1時間半で見事にきれいな浜辺に生まれ変わった。

石狩市の浜益区は、札幌からは車で北に約1時間半、人口約2000人に満たない小さな集落であるが、日本海に面し、背後には暑寒連峰が連なり、自然豊かで風光明媚な所。夏はキャンプや海水浴とアウトドアを満喫できる観光名所となっている。同区の収入源は観光ということになるのだが、観光客が捨てるゴミ問題が生まれる。ゴミ問題を解決するために、区ではゴミ籠の撤去し、ゴミ持ち帰りを推奨したり、ゴミ袋を有料化するなどの対策を講じたが、ゴミは一向に減る気配がなかった。

一方、北海道海浜美化を進める会（事務局・札幌、水崎呈会長）では、毎年浜益区の海岸のゴミ清掃活動を独自に行ってきたが、地元住民との接点はそれほど大きいものではなかった。今回、浜益区では地元住民と札幌の進める会が協働で行うことを提案、進める会も「地元住民との交流ができれば、それ以上にうれしいことはない」（水崎会長）と同意して、協働での活動となった。

参加者を募るため、回覧板を全戸に配布したり、

NPO法人 北海道海浜美化を進める会

NHKや新聞での募集呼びかけを行ったりした。

4月28日は、札幌から大型バスやマイクロバス、マイカーで130人が駆けつけ、地元も合わせて総計180人が海岸の清掃活動に従事した。

折りしもこの日は風は少々あったものの、晴天に恵まれ、ボランティア日和。半数が子供達だった。親子3人で参加した砂川幸美さんは、「子供にきれいにする事の大切さを知ってもらいたかった」と話す。

参加者はさわやかな春の光を浴びながらゴミを拾い、1時間半あまりで、浜辺は見違えるほどきれいになった。収集したゴミの量は1トトラック3台が一杯になるほど。空き缶やペットボトル、プラスチックタンク、ロープ、魚網漁具などが集められた。

清掃活動後、石狩市観光協会札幌事務の竹元義晴所長は、「ゴールデンウィークにも観光客はやってきます。札幌から100人以上のボランティアの方々が浜益区のためにやって来ていただいて、それが今後大きな刺激になっていくと思います。私たちも自分たちの町をきれいにしていきたい」と感想を述べ、それに対して水崎会長は「今後、4月28日が浜益区のボランティアの日になるように続けて頑張っていきたい」と語り、海浜美化を通して交流を深める意欲を示した。

清掃後は、みんなで豚汁を食べながら疲れを癒し、さらに天然温泉の浜益温泉に寄って、自然の恩恵を十分に受けながら帰路についた。次回の予定は6月17日に厚田地区、望来浜海水浴場での清掃を予定している。

みんなで助け合い、きれいな浜辺に生まれ変わる



みんな下力を合わせて掘り起こす



トラック3台分のゴミが集まりました



水崎会長の挨拶